

# 足羽川ダム環境モニタリング委員会

## 現地視察会、意見交換会の概要について（案）

1. 日 時：平成 28 年 12 月 1 日（木） 13:00~16:50

2. 視察場所：足羽川ダム貯水地周辺及び水海川分水堰周辺

3. 委 員：

奥村 充司 （福井工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授）

久保上宗次郎（猛禽類研究家）

中村 幸世 （福井市自然史博物館 学芸員）

◎ 福原 輝幸 （広島工業大学 工学部 環境土木工学科 教授）

松田 隆喜 （福井農林高等学校 教諭）

◎ 委員長（\*50音順・敬称略）

4. 現地視察結果の概要

- 足羽川ダム工事事務所より、足羽川ダムの環境モニタリングの状況の報告を行った。
- モニタリング計画に基づき、環境調査を実施されていることが確認された。
- 保全対象種の植物について、移植状況を確認し、計画どおり保全措置がされていることが確認された。
- 付替道路・工所用道路の施工状況および水海川導水トンネル工事予定箇所の状況が確認された。
- 現地視察実施後、委員間で意見交換を行い、以下の意見が出された。
  - ・定期的な視察会により工事の進捗・環境の変化が確認できることは良い。
  - ・試験的な植樹をNPOと協働で実施することや、湿地の創造など積極的な取り組みを期待したい。
  - ・猛禽類について、今年度も繁殖しており繁殖率を確保していることが確認できた。
  - ・猛禽類に関連して、原石山など発破を使用する工事については注意深くモニタリングを行うこと。
  - ・魚類の移動障害の改善のため、魚道設置などを検討すること。
  - ・試験緑化について、実施経過を随時報告すること。
  - ・導水トンネル工事等により濁水の発生が懸念されるので、濁水対策を適切に行うこと。
  - ・導水トンネル工事に伴う地下水への影響や地下水低下対策として実施する非排水構造の効果は、重要なデータであるのでモニタリングをしっかりと行うこと。
  - ・アジメドジョウの保全にともなう調査は、高濃度濁水にこだわらず洪水時に実施することを検討すること。